

令和2年度 ミュージアムを活用した美術教育実践事業

目的

- ・郷土の作家や大分に縁のある美術作品を鑑賞することで、郷土の文化の豊かさ、本物のよさを感じ取り、美術作品に対する多様な見方、コミュニケーション能力や表現力、豊かな感性を育成する。
- ・児童が主体的・対話的に取り組む、鑑賞と表現を関連付けた授業の充実を目指す。

I 県立美術館での鑑賞活動の様子

令和2年度は4年生を中心に、県内11市町の19校を県立美術館に招待、鑑賞活動を実施しました。

美術館では、それぞれが自分なりの見方や感じたことをで、自由に伝え合いました。また、「作品のどのような表現からそう感じるのか」についても考える場をもたせ、鑑賞の後は班や全体で振り返りをしました。美術館での活動の様子を紹介します。

Step1

美術館に着いたら、ガイドスタッフの方とのご対面。はじめの会で鑑賞の三つのめあてと美術館でのマナーを確認しました。

【めあて】 展覧会を楽しもう！

【楽しむためのステキなヒント】

- ①からだを使っていろんな見方を試そう。
- ②自分なりの感じ方を大切にしよう。
- ③作品から感じたことを友だちと伝え合おう。

〔美術館での三つの約束〕

- ①作品にさわらない
- ②走らない
- ③大声を出さない



Step2

展示室では5人以内の班でガイドスタッフと一緒に作品鑑賞をしました。

座って見上げて「あれ？」、手で枠をつくってのぞいて「あっ！」、作品のまねをしてみても「むふふ」など、いろんな声が聞こえてきました。また、感じたことを班で自由に話し、見方や感じ方の違いを楽しみました。

Step3

展示室から帰ってきて、まずは同じ班のみんなと振り返り。「あの作品が気に入った！」「私はあの作品！」おうちの人に素敵なお土産話ができただろうか？

みんなの前でお土産話をお披露目し、「そうそう」「そうだった！」「こんな感じ」身振り手振りで教えてくれる姿がとても素敵でした。

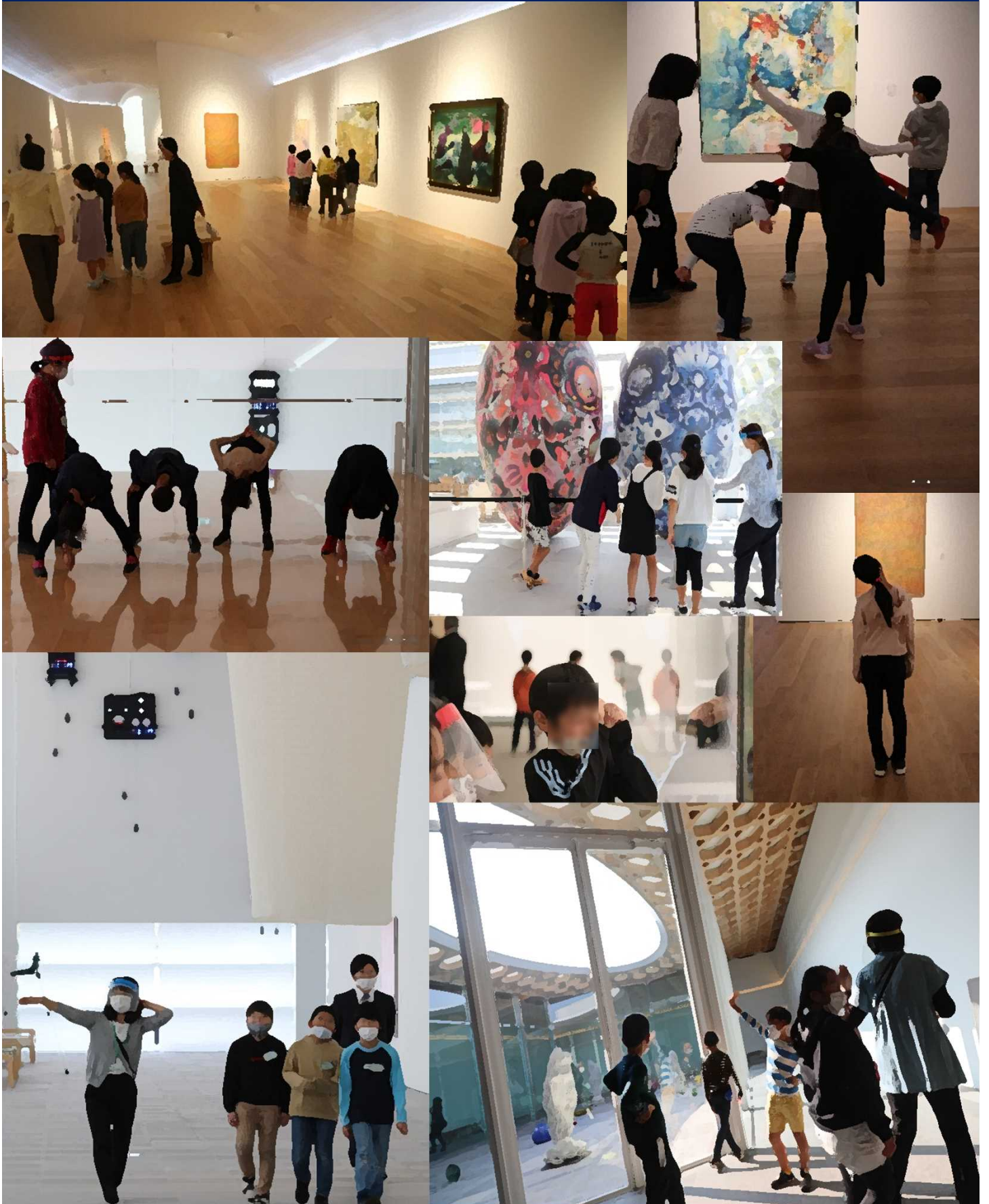
楽しい時間はあっという間でした。帰るときにはガイドさんとエアタッチ。また来てね！

【新型コロナ感染症対策について】

令和2年度は新型コロナ感染症対策のため、バスを増便、班の人数を5人以内にする、入館時の検温等しました。

30人以上の学校については全体ではじめの会と振り返りの会をせず、班ごとに広い空間で行いました。

鑑賞活動の様子



鑑賞活動後の児童の感想

心にのこった作品の紹介文を書こう(感じたこととその理由もかこう。)

にしきごいの絵に水は描かれていないのに水の中に入るような感じがしたので不思議に思いました。
(森中央小学校)

私が心に残ったのは、空の絵です。理由は、空に一色じゃなくていっぱいのあるんだよと教えてくれるような感じがしたからです。(大分市立寒田小学校)

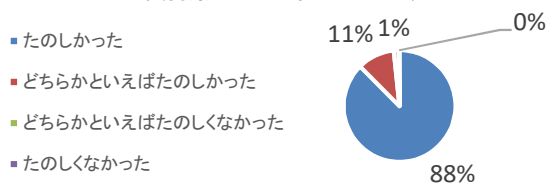
海の水の流れを表していてすごいと思ったし、水の色が全て違う色だったのでキレイだなと思いました。奥の方まで透き通ってみえておもしろかったです。
(南院内小学校)

つるが描かれている絵。ななめからみるとつばきや草がかいじゅうにみえてハトを食べようとしていた。「たすけてー」とハトが言っているように見えました。
(宇佐小学校)

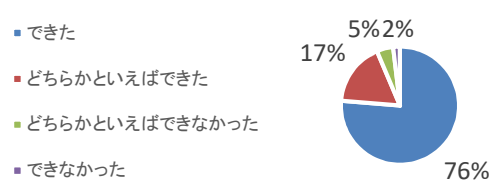
竹の絵が印象に残りました。その理由は昔は竹の色は緑色と決まっていたけど、作者はそれをやぶって白や薄紫などの色を使っていたのできれいでした。
(安岐小学校)

鳥の絵がいいと思いました。あの景色はみたことないからです。それに色もきれいだったからです。この絵に題名を付けると「空から見た景色」です。
(今津小学校)

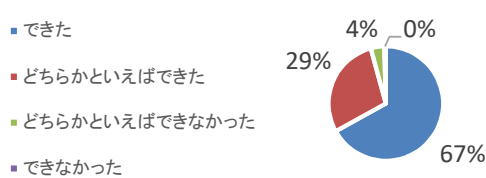
1 美術館ツアーは楽しかったですか



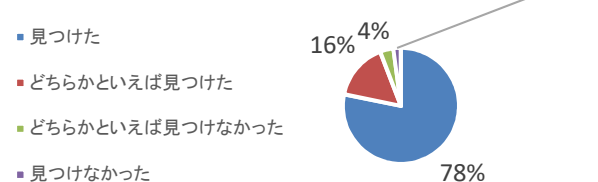
4 友だちやガイドさんと作品についてお話しできましたか。



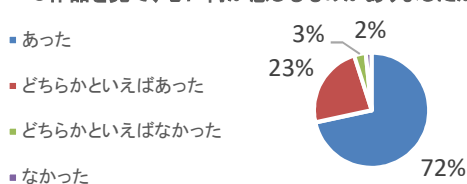
2 心とからだを使って色々な見方をすることができましたか。



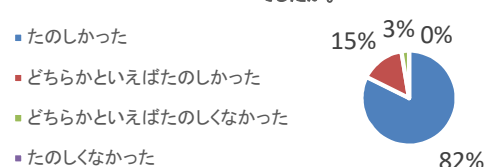
5 好きな作品、心にのこる作品を見つけましたか。



3 作品を見て、心に何か感じるものがありましたか。



6 美術館のガイドさんや学校の先生と一緒に作品を見て、どうでしたか。



Ⅱ 美術館での鑑賞後の授業実践の報告

小学校学習指導要領(平成29年告示) 図画工作科の「指導計画の作成と内容の取扱い」では、「題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習が充実するようにすること」と示されています。また、鑑賞の指導に当たっては、「地域の美術館などを利用したり、連携を図ったりすること」が示されています。

各学校では、美術館で体験した「色々な見方をする」こと「自分なりの見方や感じ方を持つ」こと、「感じたことを友だちと交流し、感じ方の違いを楽しむ」ことを図画工作の授業でも取り入れ、表現力を高める指導の工夫が求められます。

今年度の参加校も、美術館での鑑賞の活動を受けて、学校で図画工作科の授業実践に取り組み、児童の豊かな感性の育成を目指しました。参加した学校の実践の一部を紹介します。

実践例1 表現と鑑賞を相互に関連させた実践 津久見市立津久見小学校

【題材名】「つなぐんぐん」

【実践の概要】

新聞紙を丸め、棒状にしたものをたくさん準備し、それらをつなぎ合わせながら思いつくままに好きな物を作っていく活動。できあがった造形物を互いに鑑賞し、感想を交流する。



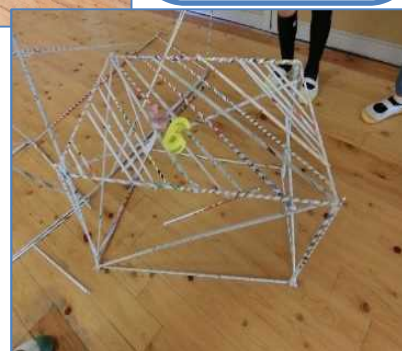
テントを作ろうとしたらだんだん高くなり、「あ、クリスマスツリーが作れそう。」



いかにに見えてきたね。それなら旗も立てよう。人も乗せないかね。



床の模様を利用した平面的な魚から、立体的なタワーやテーブルなど、発想がどんどん広がっていきました。



【題材名】「地域の妖怪伝説を知ってもらうための案内アプリを作ろう」

【実践の概要】

- ①地域の情報発信について学ぶ
- ②臼杵の情報発信(妖怪)について学ぶ
- ③プログラミングを活かして町の案内アプリを作る
- ④作った案内アプリを使ってもらう

①町中にある消火栓のQRコードを見つけ、町中の妖怪探しをする



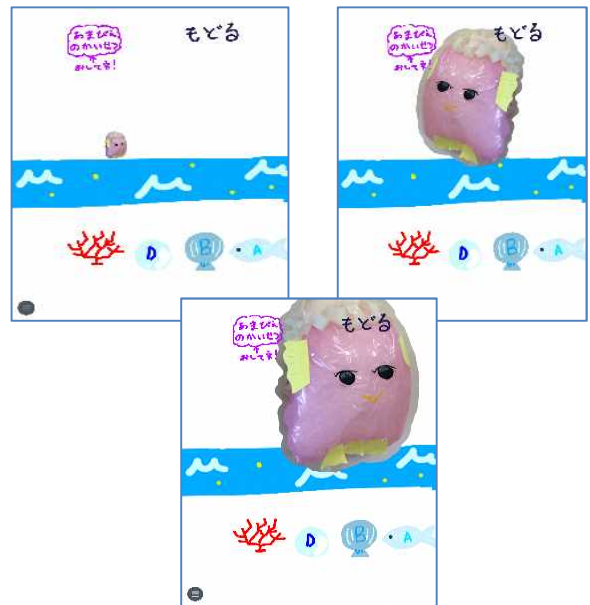
②アイデアスケッチをもとに、カラーポリ袋、緩衝材、針金などを使って妖怪をつくる。



③できた妖怪の人形をあちこちで校内や地域で撮影する。



④その写真を使ってアプリをつくる。Springinというアプリで臼杵の町中の地図と妖怪の写真を使い、あるポイントに来ると妖怪が出てきたり、動いたり、ゲームができたりにするアプリをつくる。



今まで作った作品は動かないものだったが、今回はiPadを使い画面上で作品がさらに動くよう角度や向きをかえてアプリとして製作した。すると動きが生まれ作品に命が吹き込まれたように感じ、作品により愛着をもてた子が多かった。

鑑賞の時間をとり、友だちの作品と自分の作品を比べ、工夫に気づいたり、良さを認め合う発言が多々あった。

実践例3 美術館での活動を生かした実践

由布市立谷小学校

【題材名】「地球は大きなキャンバスだ」

【実践の概要】

美術館での鑑賞学習で学習した「見方」を生かして、運動場の空間を活用し、落ち葉の色や形の違いを見つけながら作品をつかった。



友だちの作品をお互いに見合う時も、「船みたい」「黄色がきれいだね」など、鑑賞学習で学んだことを生かしながら感想を伝え合うことができた。鑑賞では、作った子どもとは違う見方で作品をとらえている子どもおり、「そういった見方もあるんだ」と驚いている子どもいた。

実践例4 美術館での活動を生かした実践

玖珠町立森中央小学校

【題材名】「水墨画の世界を楽しもう」

【実践の概要】

美術館で見た水墨画を思い出させ、同じように水墨画の世界を楽しもうという活動を組んだ。まずは、墨汁を少量硯に出し、徐々に水を加えていくことで、水墨画独特の濃淡を感じさせる。いつも毛筆書写で使用している半紙に、教室から見える風景や自由に思い浮かぶものをかかせた。雪が降っていたため、濃淡で雪を表現しようとしている子どもがいた。

色がないから難しいと思ったけれど、意外と楽しんでかくことができた!

表現や鑑賞の仕方は自由だということに子どもたちは驚き、今度はゆっくり鑑賞したいと家族で来館を希望している子どももいた。水墨画をじっくりと見ている子どももいた。おそらくガイドさんの案内による効果だと感じた。

保護者からは、美術館に家族で行くことがないので、貴重な体験をさせてもらえたという感想があった。



かすれるのが面白い!!

【題材名】「3年生の作品のよいところを見つけよう」

【実践の概要】

大分県立美術館において、絵画の見方について、見方を変えるとその絵の受け取り方が違ってくるということを学習した。その手法を活かして、3年生の作品を鑑賞し、その中で気に入った作品を見つける活動を行った。



遠くから見たら、オーロラが天の川みたいにきれいでした。雪だるまの親子が楽しそうに、たくさんの星や雪に話しかけているように見えました。見ていて、楽しくなりました。

遠くから見たら、オーロラや雪が全体的に見えて、近くから見たら、細かい色や形、材料が分かりやすい作品でした。



作品を見る時の自分の位置、手で望遠鏡を作るなどをして、様々な角度から鑑賞していた。ワークシートの感想の中から、遠くからと近くから見た時の印象や、作品から伝わる物語を想像している記述がみられました。

令和2年度ミュージアムを活用した美術教育実践事業に係る 新型コロナウイルス感染症感染予防対策

<p>実施前</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●実施計画 異なる学校が同時帯に重ならないような実施計画を作成 ●班編制 昨年度までは一班6人を基本としていたが5人以下に設定 ●送迎バス 児童同士の間隔を空けるために2席に一人が座れるようにバスを増便 ●児童・引率教員名簿の提出 感染が発生した場合に備え、児童・引率教員の名簿を提出
<p>当日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●検温 美術館入り口にて児童・引率教員の検温と手指の消毒を行っている。体温が37.5度以上ある場合は入館できない。入館できなかった児童がいる時のために、参加校は児童待機車両を一台準備 ●全員マスク等の着用 児童、引率教員等は全員マスクを着用 ●研修室の利用 密を避けるために30人以上の学校は、はじめの会等を班ごとに広い空間で行い、振り返りのアケート記入は学校で記入し後日義務教育課担当に送付 ●水筒の持参 館内にあるウォータークーラーは使用禁止。水筒を持参 ●鑑賞時の間合い コレクション展示室に入る班の数については時間差を付けて少数班で入室
<p>実施後</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●研修室の消毒 使用した研修室は毎回消毒

令和2年度ミュージアムを活用した美術教育実践事業まとめ

月	日	曜	AM10~12 PM13~15	(市町村) 学校名	児童 数	学級数	教員数	バス型台		ガイド スタッフ数
9	4	金	PM	(臼杵市)佐志生小(4~6年)	14	3	3	大型	1	3
	29	火	PM	(由布市)石城小	5	1	2	中型	1	1
10	12	月	AM	(宇佐市)宇佐小学校	12	1	3	中型	1	3
	22	木	AM	(国東市)安岐小(アトリエ)	40	2	5	大型	2	9
			PM	(由布市)谷小(アトリエ)	7	1	2	中型	1	2
	23	金	AM	(国東市)小原小(4. 5年)	16	2	4	大型	1	3
			PM	(宇佐市)佐田小(3. 4年)	10	2	3	中型	1	2
	29	木	PM	(玖珠町)森中央小	37	1	3	大型	2	8
30	金	AM	(津久見市)津久見小	43	2	3	大型	2	10	
11	6	金	AM	(中津市)和田小	31	1	1	大型	2	7
	12	木	AM	(臼杵市)福良ヶ丘小	18	1	3	大型	1	4
	17	火	AM	(日出町)藤原小	35	1	3	大型	2	7
	20	金	AM	(中津市)今津小	38	1	1	大型	2	8
	27	金	AM	(杵築市)東小	17	1	2	大型	1	4
12	11	金	AM	(大分市)南大分小(特1~5年)	30	5	6	大型	2	6
	14	月	PM	(大分市)寒田小	83	2	4	大型	3	12
	15	火	PM	(大分市)寒田小		1		大型	2	6
1	15	金	AM	(宇佐市)南院内小(1~6年)	9	6	7	中型	1	2
	21	木	AM	(宇佐市)安心院小	17	1	2	大型	1	4
	29	金	AM	(別府市)春木川小	64	2	3	大型	3	13
				19校 37学級 526人	526	37	60		32	114